

急性気管支炎

原因と症状

- ・微生物の感染により気管支粘膜に炎症が起こり、痰を伴う咳がみられる状態を一般的に気管支炎といいます。
- ・急性気管支炎は急性上気道炎(感冒)などに合併し、気管支粘膜の炎症によって、発熱と咳、痰が症状として認められます。
- ・この症状は肺炎でもみられますが、肺炎の場合は、炎症は主に気管支よりもさらに末梢の肺胞で起こるので、胸部X線像で浸潤影と呼ばれる陰影が認められます。
- ・痰が長く続いたり、膿性の黄色の痰がみられる場合には、細菌による感染症が疑われます。
- ・原因微生物の診断のための検査は、急性気管支炎がウイルスによって発症することが多いため、あまり有用な方法はありません。
- ・ウイルス以外のマイコプラズマやクラミジアも同様に、一般の検査室で行われる細菌学的に迅速で有用な検査法はありません。
- ・インフルエンザによる気管支炎は例外で、鼻腔や咽頭ぬぐい液から抗原を検出する迅速診断法が行われています。

治療

- ・鎮咳薬、去痰薬、消炎薬などが対症療法として使われます。
- ・原因微生物に対する特異的な治療は、ウイルスが原因の場合、インフルエンザを除いて有効なものはありません。
- ・マイコプラズマやクラミジアは、周囲に同じような症状の人がいた場合に疑われる病原微生物で、マクロライド系(エリスシン、クラリス、クラリシッドなど)やテトラサイクリン系(ミノマイシン)が有効です。
- ・細菌性の場合にはニューキノロン系(クラビット、アベロックス、ジュニナックなど)の抗菌薬も有効です。

急患診療センターを受診するめやす

- ・激しい咳と痰が続き、高熱が出たり、呼吸困難になった場合は急患診療センターを受診しましょう。